

1 新入寮生の土佐寮紹介

『 三鷹の風に吹かれて 』

一橋大学1年

はじめまして。高知県宿毛市出身の吉川です。ここでは僕が4月から約6か月東京で、そしてすっかりもう慣れ親しんだ東京土佐寮で過ごしていく中で感じたことや思ったことを少し述べさせてもらいます。土佐寮に少しでも興味を抱いている方や東京での生活に不安を抱えている方の少しでも助けになれば幸いです。

まず、僕が東京土佐寮に決めて良かったと思えることを挙げるとするならば、それはやはり色んな人と関わることだと思います。土佐寮には高知県出身という共通点はあるものの通っている大学は様々であり、様々な価値観を持った人が在寮しています。食堂や風呂場、または土佐寮が開催する交流イベントで先輩もしくは同期から聞いた話は僕にとっては知らない話ばかりでとてもためになっており、プラスにはたらいっていると思えます。また、4月は新入生にとっては新歓期と呼ばれる激動の一か月であり、同時に新生活を始めていく中で不安が大いに募る時期でもあります。そんな時に寮に帰れば適切なアドバイスをくれる先輩がいたことや悩みを共有しあった同期がすぐ近くにいたことはとても心強かったです。

土佐寮はさらに立地も最高だと思います。土佐寮から15分ほど歩くと吉祥寺駅に行くことができ、住みたい街ランキングで毎年上位に挙がる吉祥寺という街はおいしい店やおしゃれな洋服屋さんが立ち並ぶ、粋でありながらも都会過ぎない街で、東京への上京を夢見る高知県民にはぴったりにんじゃないかなと思います。また、土佐寮のすぐ隣には井の頭公園という大きな公園が隣接していて、400メートルトラックや野球場、テニスコートなどが使用できます。テニスコートには無料で使用できる壁打ちゾーンが付いていて、僕も時々利用し汗を流しながら東京を満喫しています。(笑) 周りは閑静な住宅地で、僕が小鳥のさえずりで目を覚ましたことのあるくらい静かなところ。そのため、運動好きな大学生だけでなく勉強好きな大学生にも大いにおすすめです。

さて、ここまで良いところばかり取り上げてきたため、胡散臭いと思われる人もいるかもしれないので、悪いところも挙げておきます。それは寮生の数が年々減っていることです。数が減るとするのはそれだけ人と関わる機会が減ることなので僕としてはすごく悲しいです。単純に土佐寮へのイメージと現実に差があるように感じます。土佐寮には実際に入寮してみないと分からない魅力が詰まっていると思うし、実際いま僕はとても満足していて、この寮に入って正解だったと思えます。あなたがもし土佐寮に少しでも興味をもっていて、この文章を読んでさらに土佐寮に興味を持ってくれたのなら嬉しいことこの上ありません。ここまで読んでくれてありがとうございました。

『 土佐寮に住んでみて 』

東京海洋大学 1年

親元、そして地元高知県を離れ東京の大学に進学しようと考えている方に向けて、私が実際に大学、東京土佐寮に入ってみて感じたことを少し記したいと思います。

東京土佐寮について詳しく知らない方も多いと思うので、簡単に説明しようと思います。東京土佐寮は、「住みたい街ランキング」で毎年上位にあげられる吉祥寺の閑静な住宅街の中に位置しており、寮の隣には井の頭公園が隣接しています。最寄り駅である吉祥寺駅までは徒歩約 15 分程度であり、吉祥寺駅から渋谷駅・新宿駅へは約 15 分、東京駅・品川駅でも約 30 分で行くことができるという恵まれた立地にあります。

寮の部屋は一人部屋で wi-fi、エアコン、学習机、ロッカーが完備されています。寮の食堂では祝日・日曜日を除いて、調理人さんによる栄養バランスの整った朝ごはん・夕ごはんが提供されます。また、夕食の置き置き制度も充実しており、サークル活動やバイトなどで帰りが遅くなった際にも夕食をとることができます。私自身も部活に所属しているため、帰りが遅くなることが多くとても助かっております。

大学という場は高校と違って自由ですが、自主性・自立性を持つことが求められます。どの授業を選択し、どのサークルに入り、どのバイトを選ぶのかといったような数多くの選択肢を与えられ、自分で選択していかなければいけません。このことは一見自由でとても良いふうにみえますが、逆手を取ればいくらでも楽しめます。実際大学に入ってみるとよくわかりますが、一人暮らしで自堕落な生活をしている人間も少なからず存在します。その点寮に入っておけば食事や風呂の時間も決まっており自堕落な生活を送ることはないでしょう。

最後に、土佐寮の寮生活におけるメリットでデメリットについてですが、メリットは上に述べたことに加えて、同郷の学友がいるため寂しさを感じることがないということです。デメリットは、これは吉祥寺に限らず、東京ならどこでもそうですが、人が多いということです。特に休日の吉祥寺は混雑しますし、都心の大学に進学される方は電車に乗って通学されるでしょうから満員電車も経験するでしょう。私も上京して間もなくのころは人混みに慣れず、少し苦勞しました。

これまで、大学・寮に入ってから私なりの感想を拙い文章でしたが記してきました。

この文章を読んで少しでも東京土佐寮に興味を持っていただけたら幸いです

2 在寮生の土佐寮紹介

『 去りゆく者の挨拶 』

東京大学 4年

土佐寮に入って早 3 年半。あと半年もすればこの寮から追い出される身となった。3 年前にも同じように拙稿を掲載していただいたが、寮の情勢や自分の心持にも変化があったのでまた駄文をつづろうと思う。

よさこいをはじめとしたかつての寮の伝統は失われたが、今年是有志による流しそうめんイベント開催など新たな試みが見られた。多くの寮生にとっては好評だったようで、主催者の某君も達成感と喜びから終始笑顔を見せていた。この企画の特殊性を一つ挙げるなら、寮内に帰結しない、関東在住の高知県人たちや井の頭地区の住民との交流も行われたことにあるだろう。職業や年代によって多くの社会集団が分断されている中で、「高知家」のつながりを生み出していく原動力となった。この寮がこれからもこのような動きを続けていけたらいいのではと考えている。

高知を離れて初めて高知の長所に気付き、愛郷心が生まれることはそれほど珍しいことでもない。私自身、東京に移ってから高知の食や自然の特徴を東京と比較しながらつかむようになった。東京に進学することは必ずしも高知からの人口減少という悪い面しかない訳ではないことを記しておく。

私にとって嬉しいのは、今年入寮してきた寮生たちの活気がいいことである。私のように陰気臭くはないし、彼らの中に澆漉とした若さを感じるのは、たった 5 人しか新寮生がない中ではせめてもの救いである。入寮から 3 年半で髪が生え際が半寸後退し、寮監の頭を見ては自分の行く末を案じるようになってしまった私は、のちの寮運営にあまり口は出さず、彼ら含め下級生たち若い力に任せてみることしかできない。そのような中で寮生に活気があるのは嬉しい限りである。自治団体というのは時に閉鎖性を伴い、時代の変化に疎いことが指摘されるが、彼らの若さと学生ならではの知的好奇心を以て自治制度の維持に努めていただきたい。

もうすぐ大学卒業、そして就職。4 年ぶりに高知で日常生活を送ることができることに喜びを隠せない。しかし、思えばそもそも地元に行きたいと願っていた私が大学くらい県外に出ようと思ったのは土佐寮の存在があったからである。異郷の地においても安い生活費で、食事も気にしなくて済む状態で学生生活を送れるのは幸せなことだ。そんな恵まれた環境が手に入れられるのなら、人生の中で県外に出て見聞を広めるチャンスは今なのではないかと東京への進学を決意した。ある意味土佐寮はわたしから故郷を引き離れた張本人である。それでも私は東京での日常生活を支えてもらって、楽しい学生生活を送れた以上は土佐寮に感謝せざるを得ない。あと半年、わずかな土佐寮での時間をゆったりと過ごしたい。

3 卒寮生の思い出

『昭和 30 年代の井の頭土佐寮時代』

昭和 34 年卒 小路 英明

(おんちゃん会東京支部 支部長)

乃木将軍が設計したという重厚な茅葺の門をくぐり、枯山水の池を擁する広大な屋敷が、昭和 30 年から 4 年間私の過ごした井の頭土佐寮でした。井の頭公園に面し、傍らを玉川上水が流れる閑静な、これ以上ない立地に建つ、三浦観樹将軍の旧別荘を、内外から寄付を募って買い取り、昭和 27 年に井の頭土佐寮として千束寮から移転しました。総勢 30 数名が大小 12 の座敷に分かれての日常生活でした。襖と障子で仕切られたこの純日本風屋敷での寮生活には、現在の個室のプライバシーはまったく無く、全ての生活がオープンでした。実の母親のような寮母さん 2 人に食事以外にもいろいろとお世話になった寮生活は今から考えると至福の 4 年間でした。まったくの自治寮で、月 1 回の全員出席の厳粛な例会で生活費が決算され寮費が決まるというシステムです。2 ヶ月以上寮費滞納の場合は原則退寮でした。それがために退寮になった者はなく、大多数は貧乏でしたが、家庭教師はじめいろいろなアルバイトで寮費を納めていました。東京都軟式野球連盟による公式記録員のアルバイトが年々受け継がれ大勢の寮生が助けられました。昭和 33 年に庭園の一角に 2 階建ての木造寮が増築されました。ベッドつきの 2 人部屋が 8 部屋だったと思います。寮生は 40 名を越えますます賑やかになりました。アルバイトで収入が入った夜は、吉祥寺の飲み屋で一杯ひっかけ良い機嫌で帰ってきます。さすがに土佐つ子酒豪が揃っていました。年一回の土佐寮祭には、井の頭交番の許しを得て、ストームファイアーを焚き、赤ふんどしで吉祥寺駅を駆け抜けて、帰りに井の頭池に飛び込むなど青春を謳歌したものでした。大学の期中、期末試験の時期には、徹夜勉強の煌々たる灯りで寮は不夜城のようになりました。当時はお互いの寮生の呼び方は、先輩も後輩も“さん”、“君”付けではなく、すべて名字または名前の下に「のおんちゃん」をつけて「○○のおんちゃん」と呼んでいました。したがって今も土佐寮OB会は「おんちゃん会」です。人生のもっとも多感な時期に、一室 3～4 人で座敷暮らしをした仲間は兄弟以上の付き合いでした。卒寮以来その関係は続いています。昭和 39 年にその屋敷寮は解体され、跡地に鉄筋コンクリート 3 階建ての新館(北館)、さらに平成 3 年に南館が建設され、すべて個室で現在定員 68 名だそうです。個室だけに家族のような寮生同士の関係が今も残っているとは到底思えませんが、100 年以上続いてきた土佐寮の伝統の灯を消さず、新しい形で受け継いでいただけたらと願っています。